

初めての稲刈り

地域の人から昔と今の農業を学ぶ10月3日(月)、山郷小学校の5年生が、北勢町南中津原の学習田で育てたもち米の収穫をしました。地域の方の協力で春の田植えから農業を教わっています。稲刈りで初めて鎌を使う子どもたちも、丁寧な指導のおかげですぐに上達。ザクザクと手際良く刈って、「稲刈り上手やってほめてもらえたよ!」と喜んでいました。最後は、機械での刈り取りを見学。あっという間に刈り取られていく稲を不思議そうに眺める子どもたちに、農業を営む伊藤隼人さんは「機械の中には、昔の稲刈りから脱穀までの技術が詰め込まれていて、今の農業に生かされているよ」と話してくれました。



1. 刈った稲の束ね方を教わる。刈る作業より難しく苦戦 2. 束ねた稲を広げるように干して乾燥させる 3. 足踏み脱穀機を使って稲からもみを落とす

自分の肌のベースカラーに合わせ、一番似合うピンクを考えます



色彩で個性を考える

それぞれの色 = それぞれの個性
9月30日(金)、員弁中学校2年生の家庭科被服の授業で、「色彩学習」がありました。この授業は、自分に似合う色を通じて「自分らしさ」を考え、自己肯定感の向上につなげることが目的です。生徒たちは、視覚の重要性や、色が持つ固有のイメージを学習。グループワークでは、お互いの第一印象を語り合い、鏡で自分や相手に似合う色を見比べました。生徒たちは「色を利用して個性を考える授業はとても新鮮」と話していました。

脱穀したもみが落ちないように、「み」でうける。昔の農具のひとつ



千歯こきを体験

治田保育園の園児が地域の人と交流
10月11日(火)、治田保育園の園児が昔の農具を使った米の脱穀を教わりました。地域の小森久昭さんが用意してくれた「むしろ」の上に「千歯こき」を設置。園児たちは、小さい手で少しの稲をつかみ、千歯こきが動かないように足で踏ん張りながら、引っ掛けた稲を力一杯引いていました。小森さんが「稲の穂の近くをつかむといいよ」とアドバイス。「もっとやりたい!」何度も挑戦していました。

伝統の曳山車行事

ひきやま
3年ぶりに開催されました
10月9日(日)、藤原町坂本と大貝戸の両地区で、3年ぶりに曳山車行事が開催されました。これは、鳴谷神社の例祭の一つです。それぞれの地区で曳山車が出て、沿道の住民も拍手を送るなどして、久しぶりの曳山車行事を楽しみました。坂本地区の曳山車は、土台となる下山の上に正面から舞台、楽屋を配置し、舞台後方から楽屋上にかけて2階部分を載せる芸屋台形式が特徴で、市の有形民俗文化財に指定されています。参加者は、「この祭りが、これから地域を担ってくれる子どもたちの伝統文化の維持継承や地域の絆づくりにつながればうれしい」と話していました。



1. 明治15年に建造された坂本地区の曳山車 2. 坂本公会堂を出発し、鳴谷神社に到着 3. 宰領が曳山車を動かす方向を指示

左から、鈴木世津子学院長、瀬木ゆずさん、市長



硬筆作品で日本一

鈴木書写書道学院の生徒が快挙
9月26日(月)、第38回高円宮杯日本武道館書写書道大展示会の硬筆の部で、最高賞にあたる日本武道館大賞を受賞した瀬木ゆずさんが、市長を訪問しました。幼児から一般までの応募者7,342人の中から1位に選ばれました。作品に対して、瀬木さんは「手本がないので、字の大きさや改行する箇所を自分で決めないといけないことに苦労した」と話していました。

選手名の由来は、父の影響で好きになった海外ドラマだそうです



eスポーツで世界へ

格闘ゲーム「ストリートファイターV」
9月22日(木)にRox3Gaming所属のKNIGHT選手が、市長を訪問しました。同選手は、8月に行われた世界最大級の格闘ゲーム大会「EVO 2022」で、1,324人中17位という好成績を収めました。大会の感想を聞かれると、「対戦中はメンタルコントロールが重要。持ち前の冷静さを生かして、勝負の流れをつかめた。今後は、プロライセンスの取得に向けて、更なる挑戦を続けていきたい」と話しました。